

映画『シロウオ』
～原発立地を断念させた町（仮）
製作発表

2013年8月27日

映画『シロウオ』製作委員会

1: 作品概要



徳島県阿南市樺町

今から30年以上も前
原発の危険性に気づいた住民が、
原発計画を反対運動によって
追い出した町のドキュメンタリー映画

東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故により、広く国民に原発の危険性が知れ渡ることとなったが、今から30年以上も前に、「いつか必ず原発事故が起きる。地元には危険な原発は建てさせない」と住民が反対運動を行い、原発計画を断念させた場所が全国に34カ所ある。

中でも紀伊水道をはさんで、双方の住民たちが協力し合い、原発計画を断念させたのが、徳島県阿南市樺町の蒲生田原発と、和歌山県日高町の日高原発電だ。

南海トラフ三連動超巨大地震が心配される中、全国各地の原発再稼働が争点となっているが、なぜ彼らはチェルノブイリ原発事故や福島原発事故が起きる前に、危険性に気づき、反対運動を行ったのか。当時、反対運動に関わった住民など11人にインタビューを行い、彼らの証言を中心にドキュメンタリー映画として約100分にまとめ、2013年11月末頃に上映を予定している。

2-1: 舞台(地図)



徳島県阿南市椿町: 蒲生田原発
1976年 四国電力が計画発表
1979年 吉原薫市長が建設中止決定

和歌山県日高町: 日高原発
1967年 日高町議会が阿尾地区に誘致決議
1975年 関西電力が小浦地区に誘致打診
1990年 原発反対の日高町町長・志賀政憲氏当選により実質上計画中止

2-2: 舞台(写真)徳島県蒲生田原発



蒲生田岬沖での漁



半農半漁の生活を送る蒲生田集落



椿川でのシロウオ漁



ウミガメの産卵地・蒲生田岬の前浜

2-3: 舞台(写真)和歌山県日高原発



日高町の原発予定地だった海



紀伊水道でのハモ漁



日高町の名物クエ

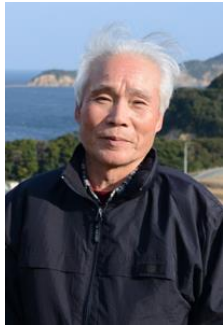


原発予定地すぐそばの阿尾の漁港

3-1: 登場人物: 徳島県蒲生田原発関係者



黒神牧場主・米山喜義さん一家
元「蒲生田岬原子力発電所建設を阻止する椿町民の会」
青年部事務局長



元「蒲生田岬原子力発電所
建設を阻止する椿町民の
会」
事務局長
元阿南市市議会議員(6期)
棕本貞憲さん



椿泊町 漁師
太居雅敏さん



伊座利漁業協同
組合
代表理事組合長
吉野清さん



民宿「あたらしや」
若女将 岡本英美さん
女将 岡本久代さん



椿ヒウオ協同組合
元阿南市役所職員
武田豊司さん



椿町喫茶・食堂「川口屋」女将 宮崎ナオミさん
椿町の住民 小島美弥子さん 並川みゆきさん

3-2: 登場人物: 和歌山県日高原発関係者



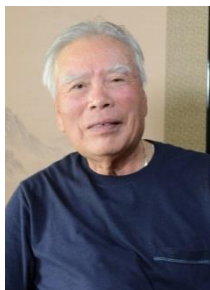
民宿「波満の家」経営／漁師
元「日高町原発反対連絡協議会」事務局長
濱一己さん一家



元「原発に反対する女
たちの会」代表
元教員 鈴木静枝さん



京都大学原子炉実験所助教
小出裕章さん



元日高町長
志賀政憲さん



京都大学原子炉実験所助教
今中哲二さん

4: スタッフ紹介



■監督 **かさこ** (1975年生まれ。本名・笠原崇寛。ブロガー、ジャーナリスト、写真家。写真集13冊。著書『検証 新ボランティア元年』共栄書房刊など18冊。『かさこマガジン』発行人。本作品が初監督デビュー)



■製作・脚本 **矢間秀次郎** (1940年生まれ。1993年に映画『あらかわ』萩原吉弘監督・シグロ製作に関与。現在、千曲川・信濃川復権の会共同代表、季刊『奔流』編集人。主な著書『揺るぎの時代を生き抜く』合同出版刊)



■撮影 **中井正義** (1950年生まれ。最近の主な実績に、『大本営最後の指令』(共同撮影) 2011年、『美濃和紙』2012年)



■録音 **田辺信道** (1952年生まれ。最近の主な実績に、プロデューサー・録音担当『わたしの季節』で、第59回毎日コンクール「記録文化映画賞」受賞、第3回文化庁映画賞大賞受賞。監督・録音担当『ただいまーの声聞くためにー 横田滋・早紀江さんの記録』が、神奈川県教育委員会学校教材に採用)



■水中撮影 **山口敬志**

5: 映画製作への想い～監督より



監督: かさこ

福島原発事故が起きるはるか以前、原発立地を断念させた町が全国にいくつもあることを、『奔流』第7号(注1)で知り、衝撃を受けました。原子力が輝かしい未来のエネルギーとして喧伝されていた時代に、しかも海外で大事故が起きる前にもかかわらず、金銭的なインセンティブを断ってまで、なぜ原発を拒否したのだろうか。

原発を拒否した町の人たちは、数十年も前になぜ原発事故を想定内のリスクと考えることができたのか。賛成派との激しい攻防はどんな風であったのか。今、原発を断念させた町はどうなっているのか、取材をしたいと思います。

原発立地を断念させた場所は全国に34カ所あるといいます(注2)。2013年1月、『奔流』編集人の矢間秀次郎氏とともに、原発立地を断念させた三重県紀北町・大紀町の芦浜原発、和歌山県日高町の日高原発、徳島県阿南市の蒲生田原発の3カ所を訪問。反対の立役者となった北村博司氏(芦浜)、濱一己氏(日高)、椋本貞憲氏(蒲生田)らを取材しました。彼らに共通していたのは、自らの生活を守り、子孫に土地や海を引き継いでいくため、自然を守ることの重要性を強く認識していたことです。原発は他の発電方法とは違う破滅的なリスクを抱えていることを学者などから学び、断固として反対運動を行い、原発を阻止したのでした。

私は東日本大震災発生後、福島を中心に何度も被災地に足を運び、被災地や被災者を取材してきました。中でも2012年3月に福島原発20キロ圏内に入り、高放射線量で「死の町」と化した無人の町を見た時の恐ろしさは今でも忘れられません。我が家に帰れなくなった人の話を聞いた時、これは福島の人だけの問題ではなく、遠くない未来に誰もが起こりうる、他人事ではない話だとの思いを強くしました。

東日本大震災から2年。3・11の記憶は急速に風化しています。今後の日本社会のあり方を考える上で、過去に原発立地を断念し、豊かな自然と共生して暮らす人々の姿を映像に残したいと思い、シナリオのもととなった『奔流』編集人・矢間氏とともに、本映画の製作を進めていきたいと思っています。

注1:『奔流』第7号(千曲川・信濃川復権の会・2012年6月7日発行)特集「原発立地計画を『断念』させた町はいま～寄せては返す“開発の波”に引き裂かれた人々を訪ねて～」収録、矢間秀次郎著「中部電力芦浜原発の巻“生涯一記者”を宣言した北村博司さんの勲章」「四国電力蒲生田原発・椋本貞憲さんの『夢』に喜ぶ白魚の群れ」

注2:『原発をつくらせない人びと』(岩波新書、山秋真著)

6:映画についての取材・問い合わせ先

映画「シロウオ」製作委員会事務局

・製作責任者 矢間秀次郎

〒184-0012小金井市中町2-5-13

TEL/FAX0423-81-7770

携帯090-3905-8571

h-yazama@oregano.ocn.ne.jp

・監督 かさこ

kasakotaka@hotmail.com

携帯080-5176-8906

ツイッター:@kasakoworld

フェイスブック:kasakotaka

公式ホームページ

<http://www.kasako.com/eiga1.html>

